

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2021. 6. 6

No.649

2021 夏季手当交渉 収入動向

2021年6月3日、夏季手当交渉 収入動向を行いました。
以下、報告します。

まず、営業部より営業成績速報（2021年4月）を説明。

営業成績速報（2021年4月）

（単位：百万円、千トン、％）

種別	本年実績	本年計画	前年実績	対計画		対前年			
				増減	比	増減	比		
月計	収入	コンテナ	9,727	10,419	9,492	-692	93.4%	235	102.5%
		車扱	945	1,036	1,013	-91	91.2%	-68	93.4%
		計	10,672	11,456	10,505	-784	93.2%	167	101.6%
	輸送量	コンテナ	1,682	1,816	1,659	-134	92.6%	23	101.4%
		車扱	590	650	638	-60	90.8%	-48	92.4%
		計	2,272	2,466	2,297	-194	92.1%	-25	98.9%

1. 収入動向

「対計画△784百万円（93,2%）」

・コンテナ

食料工業品は全国的な販売不振により対計画△322百万円だったほか、農産品・青果物は、外食向けに需要が低迷する民間流通米や作柄不良の九州産玉葱等が低調に推移し対計画△92百万円となった。また、化学工業品・化学薬品は樹脂等の需要減などによりそれぞれ対計画△82百万円、△65百万円となった。コンテナ全体では、対計画△692百万円（93,4%）となった。

・車扱

車扱は、4月の気温が高く推移したことから、灯油が発送減となったほか、セメントが低調であった。車扱全体では対計画△91百万円（91,2%）となった。

「対前年+167百万円（101,6%）」

・コンテナ

本年度・昨年度共に新型コロナウイルス感染症の影響を受けていたものの、昨年度実績は上回った。積合せ貨物は3月より運転開始となったブロックトレインやEC需要の拡大などにより+296百万円、自動車部品は昨年生産調整の反動により+76百万円となった。一方、農産品・青果物は、民間流通米の販売不振や九州産玉葱の作柄不良などにより△136百万円となった。食料工業品が清涼飲料水・砂糖・菓子類の販売不振で△66百万円となったほか、化学工業品はペットボトル用樹脂等の需要減などにより△21百万円となった。コンテナ全体では、対前年+235百万円（102,5%）となった。

・車扱

石油は、4月は気温が高く推移したことから灯油の発送が落ち込んだ。車扱全体では対前年では△68百万円（93,4%）となった。

2. 輸送量動向

4月のコンテナは、昨年が新型コロナウイルス感染症に伴う影響を大きく受けたため、積合せ貨物、自動車部品、他工業品を中心に前年を上回った。積合せ貨物がEC需要の拡大や3月のブロックトレイン運転開始等により好調となったほか、自動車部品は昨年の自動車生産調整の反動等で前年を上回った。また、他工業品は積合せ貨物や自動車部品輸送用の積付用品が反動増となったほか、エコ関連物資は、建設発生土や焼却灰が堅調に推移した。一方、農産品・青果物は、外食産業向け民間流通米の販売不振、九州地区の玉葱作柄不良等により大幅減となったほか、紙・パルプは2月に発生した福島県沖地震の影響もあり前年を下回った。結果、コンテナ全体では前年比101,4%となった。

車扱は、4月の気温が高く推移したことで灯油が発送減となったほか、セメントが低調であった。結果、車扱全体では前年比92,4%となった。コンテナ・車扱の合計では、前年比98,9%となった。

組合・新年度に入り2ヶ月が経過したが荷動きはどうか。

会社・コンテナ・車扱を合わせて4月は対計画△783百万円、5月は速報値で△899百万円と大変苦しい状況である。コロナの影響を受け、外食産業向け

-
- の飲料・酒類といった食料工業品や、民間流通米といった農産品が落ち込んでいる。また、世界的な半導体不足により自動車部品輸送が影響を受けている。6月も引続きの厳しい状況を想定している。
- 組合・コロナ禍という、これまでにない窮地に立っているが、「コロナ禍だから仕方がない」と諦めていられたら困る。この窮地を打破するために様々な対策を練っていると思うが、話せる範囲内で対策の中身を教えてほしい。
- 会社・短期的には、コロナというマイナス要素に苦しんでいるが、長期的な観点では2024年度のトラックドライバーの労働時間規制強化や、政府が掲げる2050年までのカーボンニュートラル目標、またSDGsやESG投資に対する社会的気運の高まり等、貨物鉄道輸送には追い風傾向であると考え、この追い風を最大限活かしていく。具体的には、ホワイト物流協賛企業（約1200社）に対して、鉄道への更なる誘致を図るべく販売強化を現在行っている。
- 組合・高速道路網の延伸化やトラック性能の向上、国からの援助等、トラック業界にも良い条件は揃ってきている。このあたりはどのように考えているのか。
- 会社・先に述べた通り、長期的な視点では、鉄道にはフォローの風が吹いていると考えている。特に2024年度のトラックドライバーの労働時間規制強化に関しては、近々の対応が求められる問題である。鉄道にとってはチャンスでもあるので、販売活動を強化していきたい。
- 組合・これまで、大きな自然災害に幾度となく見舞われ、今年度もどうなるかは未知数である。代行手配や迂回輸送等、様々なノウハウを得てきているが、更に画期的な対策があれば教えてほしい。
- 会社・残念ながら、災害対策に画期的なものではなく、地道な取り組みを積み重ねていくことが肝要と考えている。今年度も①運用線区拡大に向けた改造機関車の試験走行を行う。②平成30年7月豪雨の際システム上の課題となった部分の改修を行う。③代行トラック用夜間駐車場の事前選定を進める。など、災害発生時の対応力強化に向け、引き続き取り組んで行く。
- 組合・東京レールゲートWESTの契約数は増えているのか。EASTの進捗状況は順調にきているのか。
- 会社・レールゲートWESTは満床の契約となっている。またレールゲートEASTは来年度に向けて順調に進捗している。
- 組合・旅客会社が鉄道貨物輸送に力を入れる報道もあるが、JR貨物としてはどのような考えをもっているのか。
- 会社・まだ見えない部分が多いので、将来に亘っては何とも言えない。
-

組合・最後に、コロナ禍の収束見通しが全く見えないことで、営業収益の爆発的な増加は期待できない。如何に営業費用を少なく抑えるかがポイントであることを常に考え業務に努めていただきたい。私達は、安全安定輸送に努めていく。

会社・承知した。引き続きご協力をお願いします。

「総務部」

組合・趣旨説明で言いたいことは話したので多くは述べないが、昨年度はコロナ禍という厳しい状況下でも連結経常利益黒字を確保した。これまで何度も言っているが、コロナ禍というこの難局を労使が一体となって乗り越えていかなければならない。JR貨物の更なる発展のためには社員の士気が必要であることは会社も認識しているはずであり、士気が落ち込むことのない回答を示されたい。

会社・コロナ禍の中、指定公共機関の使命を果たすべく、全社員が一丸となり努力していることは認識しており改めて感謝申し上げます。引き続き、貴組合の主張を受け止め、社内で議論していく。

組合・次回、会社の考えはいつか。

会社・6月10日である。

組合・誠意ある「会社の考え」を強く求めたい。

会社・主張は受け止める。

以上
